



児童のワークシートより

終末では、「助け合うとどんな気持ちになる？」と問いかけ、「嬉しくなる。」「気持ちよく生活できる。」などの返答があり、「小さな助け合いの積み重ねが大切なんだね。」と話し、余韻を持って終わらせることができた。

○泣いている「こんきち」は、このあと、どんなことを考えたのでしょうか。

- ・ごめんね。今度から優しくするから、楽しく気持ちよく暮らそうね。
- ・ぼくのことを助けてくれてありがとう。もう、いじわるしないよ。
- ・ぼくも逃げ出さないで、助けてあげればよかった。ごめんね。
- ・何で助けてくれたのかな。みんな、ありがとう。ぼくもやさしくしよう。
- ・みんな仲よくしてね。これからは、ぼくもやさしくして、助け合っていくよ。
- ・ごめんね。みんな友達になってくれるかな。
- ・これからもなかまだよ。こんなぼくをよろしくね。ゆるしてね。
- ・追いはらってくれてありがとう。みんなに迷惑をかけてごめんね。

指導内容（富士見市立みずほ台小学校 鈴木孝雄 教頭先生）

- ・教員も子ども達も楽しい授業をしてほしい。他の学校に持っていきたくなるような授業を考える。
- ・「友達は、なぜつらくなくちゃいけないの？」等の素朴な質問に教師も考えを普段から持っていることが大切。
- ・低学年では、役割演技を4人で、無理なら2人でなど、担任をモデル化して取り入れることも効果的。
→劇化、動作化、疑似体験、それぞれ違うものもあるので、指導の工夫としてねらいにむけて組み合わせていく。
- ・教師の話しすぎを控える。
- ・子どもの頭に？が生まれるような発問の工夫をする。
→発問を精選し、発問の必然性や意味を大切に授業をしていく。
- ・中心発問に15分かける授業をする。
→いろいろな考えをどう深めていくかが大切。

3. 成果と課題

- 授業の始まりの雰囲気がよく、導入でアンケートを用いたことで興味を持って授業に参加できた。
- 教材文を提示せず、話を聞かせるスタイルが良かった。子どもたちが集中して話を聞いていた。
- 繰り返し、役割演技がとても効果的だった。
- ワークシートの活用により、考えが整理され、話し合いが深まった。
- ▼繰り返しの発問が一問一答にならないように日頃から、話し合いをたくさんしていく。
- ▼話し合いの時間が短くなってしまったので、タイムマネジメントを考えていきたい。
- ▼子どもたちが自ら課題を見つけていく、手立てを考えていきたい。
- ▼後段のまとめ方、教材と自分の離れ方、生活につながる発問を考え、精選していく。